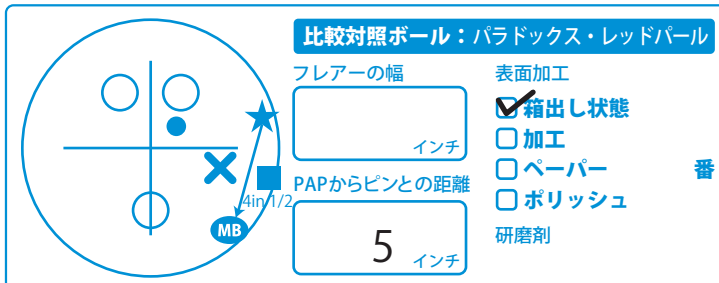
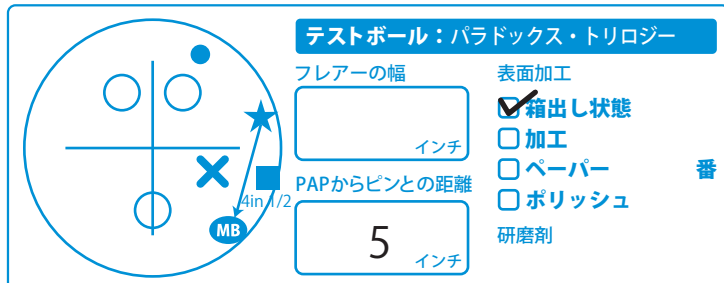


ボールの特性レポート

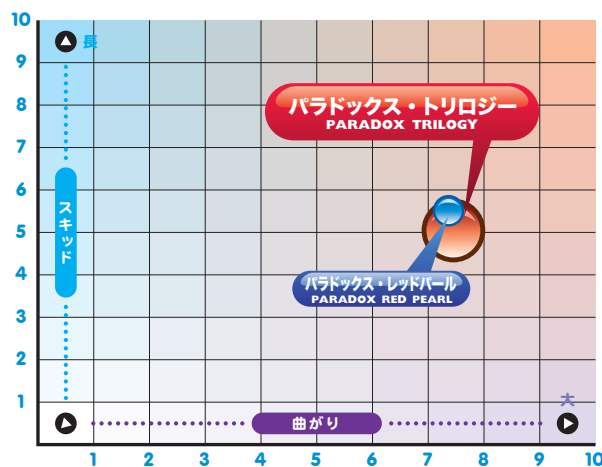
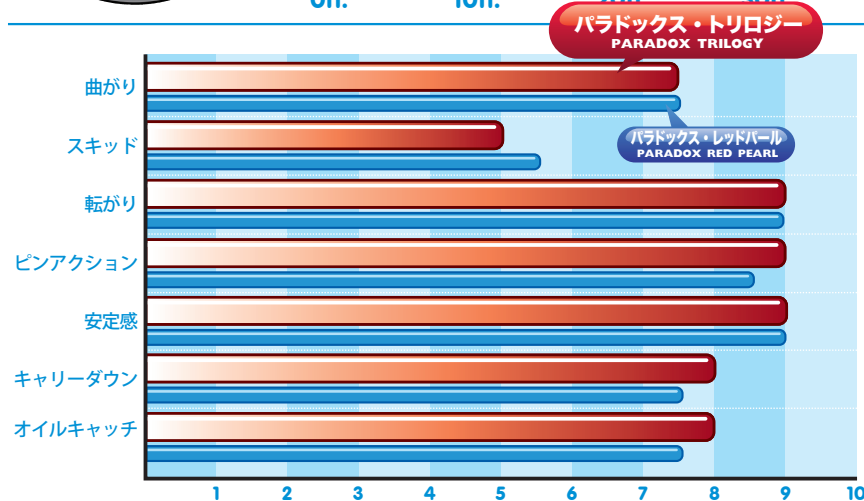
BALL REPORT



ボール名	パラドックス・トリロジー		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.057	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール		



ヘビー
ミディアム
ライト
バフ



ボールの評価

前回のPARADOX RED PEARLはスキッド感とBackendの明確な動きが表現されていて、Tournament playerから女性の方まで幅広い層のユーザーに使用して頂きました。SSF 80 Pearl Reactive(Super Soft Flexible)※低架橋密度CoverstockでTRACK社のボールのセールス記録を塗り替えたPARADOXシリーズ最終章のTRACK TORILOGYの発売です。TRACK TORILOGYはPARADOXシリーズで最もRa値(ラフネスアベレージ)の高いCoverstockをPearl素材を主原料として作られています。このTORILOGYの開発コンセプト、はPARADOXシリーズの中で最もオールラウンドに適した幅広いコンディションを視野にしているボールと言えます。今までのPARADOXは各々コンディションに特化した部分が明確で、その”分野でのスペシャリスト”だったと思います。その領域をオールラウンドに対応できるように仕上げると手前のグリップ感とバックエンドのグリップ感のバランスをとる必要性があり、そうすることで結果は幅広いコンディションへの対応が可能になります。テストングの感想は、”限りなくベンチマークに近い領域”というのが第一印象でした。キャッチし過ぎることもなければキレ過ぎることもなく、コンディションにダイレクトにボールは反応してくれます。かなり強いCoverstockなのですが、手前にパワーが出過ぎることもなければMidでもなくBackendでもありません。すべてにおいて平均しているので幅広いコンディションで曲りが一定しているのがコントロール性を生み出しているのだと思います。TRACK社はPARADOXシリーズをこのTORILOGYで完結することを決めました。このTechnologyを三部で完結する意味がこのボールには込められているのでしょうか。PARADOX、PARADOX PEARL、PARADOX TORILOGYの三部作で完結するそれがこの”TORILOGY”なのです。

特記事項

PARADOX最終章はオールラウンドに適したベンチマークなボール。
Mediumを中心にコントロールできるボールをお探しの方はこのボールはオススメです。